

平成25年行政事業レビューシート

(文部科学省)

<b>事業名</b>	国際教育交流事業の振興		<b>担当部局庁</b>	大臣官房国際課		<b>作成責任者</b>		
<b>事業開始・終了(予定)年度</b>	平成19年度・未定		<b>担当課室</b>	国際課		国際課長 永山 賀久		
<b>会計区分</b>	一般会計		<b>政策・施策名</b>	豊かな国際社会の構築に資する国際交流・協力の推進 XIV-1 国際交流の推進				
<b>根拠法令 (具体的な条項も記載)</b>	-		<b>関係する計画、通知等</b>	-				
<b>事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)</b>	国際化が進展する中、我が国が教育や文化・スポーツ・科学技術・学術の分野で国際社会をリードしていくためには、これらの分野における国際交流を一層推進することが不可欠であるため、国際教育交流業務の高度化及び国際教育交流の振興に資する。							
<b>事業概要 (5行程度以内。別添可)</b>	○国際教育交流アソシエイト:高度な外国語及び日本語能力を有し、かつ文部科学行政及び国際教育交流に関する知識・関心を有する人材を「国際教育交流アソシエイト」として配置し、国際会議関係資料や文部科学省を訪問する外国人等に対する説明資料等を翻訳させ、我が国の教育・文化・スポーツ・科学技術・学術分野における取組を世界に向けて情報発信する。							
<b>実施方法</b>	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託・請負 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> 交付 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他							
<b>予算額・執行額 (単位:百万円)</b>			22年度	23年度	24年度	25年度	26年度要求	
	予算 の 状 況	当初予算	18	16	17	13		
		補正予算	0	0	0	0		
		繰越し等	0	0	0	0		
	計		18	16	17	13	13	
	執行額		14	11	14			
執行率(%)		77.7%	68.3%	84.0%				
<b>成果目標及び成果実績 (アウトカム)</b>	成果指標			単位	22年度	23年度	24年度	目標値 (25年度)
	国際教育交流アソシエイトによる資料翻訳の定型業務関連事務経費がほとんどを占めるため、定量的な成果目標の設定にはなじまない。定性的な目標としては、当省の取組を効果的に発信できた実績や国際交流が促進された実績があること。			成果実績	政府間会合でのスピーチや海外での施策説明に活用された。	政府間会合でのスピーチや海外での施策説明に活用された。	政府間会合でのスピーチや海外での施策説明に活用された。	国際会議や外国からの要人対応の場で、当省の取組について情報発信したり、諸外国との交流が促進する。
				達成度	%	—	—	—
<b>活動指標及び活動実績 (アウトプット)</b>	活動指標			単位	22年度	23年度	24年度	25年度活動見込
	国際教育交流アソシエイトによる資料翻訳の作業件数			活動実績 (当初見込み)		422 ( 300 )	343 ( 300 )	507 ( 300 )
<b>単位当たりコスト</b>	18,666(円/件)			算出根拠	24年度執行額を24年度翻訳件数で除したものの。			
平成25・26年度予算内訳	費目	25年度当初予算	26年度要求	主な増減理由				
	諸謝金	9.0百万円	8.7百万円					
	委員等旅費	0.2百万円	0					
	庁費	4.2百万円	4.1百万円					
	計	13.4百万円	12.8百万円					

事業所管部局による点検					
	項目	評価	評価に関する説明		
国費投入の必要性	広く国民のニーズがあるか。国費を投入しなければ事業目的が達成できないのか。	○	当省の情報発信に係る経費であり、当省が自ら負担することが適当。		
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。	○			
	明確な政策目的(成果目標)の達成手段として位置付けられ、優先度の高い事業となっているか。	—			
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。	○	国際交流アソシエイトの採用に当たっては、公募の上、書面及び実技・面接試験を実施し、高度な能力を有する者を選考している。採用後は、日常の業務管理及び成果物の内容の確認を実施しており、また、各国際交流アソシエイトの勤務時間について、業務量や業務分担に留意しながら、適正に管理している。		
	受益者との負担関係は妥当であるか。	—			
	単位当たりコストの水準は妥当か。	○			
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	—			
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○			
不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	—				
事業の有効性	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	○	国際教育交流に関する文書等の翻訳、外国語による資料作成等の業務を行うに当たっては、高度な外国語及び日本語能力を要するほか、依頼文書の緊急度によっては、迅速な対応が求められるところであるところ、国際課にアソシエイトを配置することで、迅速で質の高い対応ができています。依頼文書を翻訳した成果物については、依頼課において十分活用されており、実効性は高い。		
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	○			
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	○			
重複排除	類似の事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)				
	事業番号	類似事業名	所管府省・部局名		
点検結果	国際教育交流アソシエイトについては、政務三役・幹部の国際会議・外国人からの要人への対応の際のスピーチや国際会議での発言要領・対処方針等、案件発生に応じて作業を行う必要があり、高度な外国語及び日本語能力を有する者に、その都度、緊急度、重要度、優先度を考慮に入れて行わせている。管理に当たっては、勤務時間管理を行い、業務量や業務分担に留意しながら適正に管理している。平成25年度においては、引き続き、我が国の様々な取組を世界に向けて発信するという主旨を踏まえ、高度な知識を有する国際教育交流アソシエイトを配置し、迅速な対応を図る。				
外部有識者の所見					
外部有識者による点検対象外					
行政事業レビュー推進チームの所見					
事業内容の改善	<p>1. 事業評価の観点: 本事業は、高度な外国語及び日本語能力を有する者を「国際交流アソシエイト」として配置し、国際会議関係資料等の翻訳等の業務を行わせるものであり、予算執行状況及び長期継続事業の観点から検証を行った。</p> <p>2. 所見: 本事業は、平成24年度には執行率の改善がみられ、また、平成25年度当初予算額で縮減を図るなど一定の見直しを実施している。平成26年度概算要求においても、積算単価を再検証するなど、引き続きコスト削減に努めるべきである。</p>				
所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況					
縮減	本事業については、概ね計画通り予算執行を行い執行率を改善させたが、平成26年度概算要求においても、更なる事業の効率化を目指し、諸謝金、委員等旅費、庁費の積算を見直し、概算要求に▲0.6百万円反映した。				
備考					
関連する過去のレビューシートの事業番号					
平成22年	0386	平成23年	0005	平成24年	0004

※平成24年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。

文 部 科 学 省  
14百万円

諸謝金 10百万円  
庁費 4百万円

○国際教育交流アソシエイトを配置し、文部科学省における取組を世界に向けて情報発信する。

資金の流れ  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)  
(単位：百万円)